第2期仙台市自殺対策計画における目標値について

1 目標値設定の考え方について

- ①ベースラインが 50%を超えない場合 ➡ (R9 までに)50%以上とする
- ②ベースラインが 50%を超える場合 → (R9 までに)プラス 10%以上とする

2 第2期計画において掲げる10の状態の目標値について

※参考値:厚生労働省「令和3年度自殺対策に関する意識調査」と同じ設問の項目は、当該調査の全国の回答割合を記載

		目指す社会状態	指標		ベース ライン	目標値	参考値
社会全体レベル	状態1	自死の要因となり得る多様な問題に対応できる相談窓口や支援の体制が十分に整っていること	「相談しやすい環境が整っている」と感じる人の割合		① 15.9%	<u>50.0%</u> 以上	
	状態2	自死の要因となり得る多様な問題に対応する支援職員の能力が十分に高い状態が維持されていること	「相談したことで不安や悩みが軽くなった」と感じる人の割 合		② 66.9%	76.9% 以上	
	状態3	自死の要因となり得る多様な問題に包括的・具体的に対応できる多機関ネットワークが構築され機能していること	適切な機関の紹介 や、問題に応じた協 働支援がよくできて	相談の対象者が抱えている問題が自 機関で対応できない場合、適切な機関 の紹介等がよくできている	① 45.7%	<u>50.0%</u> 以上	
			いると感じている機関の割合	対象者の問題に応じて、他課や他機関 等と協働した支援がよくできている	① 34.4%	<u>50.0%</u> 以上	
	状 態 4	自死の要因となり得る悩みや困 りごとが生じない環境が整って いること	「仙台市は一人ひとりが尊重され、安心して暮らすことができるまちである」と感じる人の割合		① 31.1%	<u>50.0%</u> 以上	
身近なコミュニティや対人関係レベル	状態5	身近なコミュニティにおいて、自 死の要因となり得る多様な問題 に対する適切な理解が十分浸 透すること	「自死に対して(1) ~(3)のように認識 している人」の割合	(1)自死する人は、直前まで実行す るかやめるか気持ちが揺れ動いて いると思う	② 63.5%	73.5% 以上	61.4%
				(2)自死する人は、よほどつらいこ とがあったのだと思う	② 81.0%	<u>91.0%</u> 以上	78.3%
				(3)自死は、その多くが防ぐことのできる社会的な問題であると思う	② 58.1%	<u>68.1%</u> 以上	58.4%
	状態 6	様々な悩みや困りごとを抱えた 人への適切なサポートや対応を 学び、身近なコミュニティにおけ る危機対処能力が向上すること	「死にたい」と相談された際に、辛い気持ちに共感を示すことや医師等への相談の提案、傾聴をするという人の割合		② 62.9%	<u>72.9%</u> 以上	59.5%
	状 ぎ 7	身近なコミュニティのメンバー 同士の支え合いや同じ悩みを 抱えた者の交流や分かち合い が促進されること	「不満や悩みやつらい気持ちを話せる人がいる」人の割合		② 79.9%	89.9% 以上	83.5%

(裏面あり)

資料3

		目指す社会状態	指標		ベース ライン	目標値	参考値
個人レベル	状態8	人を自死に追い込む差別等の 社会的な問題や自分自身のセ ルフケア、健康維持(精神的、身 体的)に関する適切な知識の習 得や理解が促されること	「死にたい」と感じるほする等の対応をとると	まど強いストレスを感じた時に、相談 考える人の割合	② 73.5%	<u>83.5%</u> 以上	
	状態9	様々な悩みや困りごとに対応で きる相談窓口に関する情報が 届き、実際の活用が促されるこ と	相談機関を知って いる人の割合及び いざという時に相談 窓口を利用すること を考える人の割合	仙台市の各相談機関の認知度 うつのサインに気付いた時に、どこ かに相談するという人の割合	① 31.8% ② 77.9%	50.0% 以上 87.9% 以上	37.4% 79.2%
	状態 10	人を自死に追い込む社会的な 問題に対する対応方法の習得 や実際の対処が促されること	「悩みや苦労、ストレス等を感じた際に対処する」という人の割合		② 77.3%	<u>87.3%</u> 以上	